



高松市議会 9 月議会報告

議員 香川洋二（獣医師） [メールmoegi@mail.netwave.or.jp](mailto:moegi@mail.netwave.or.jp)

情報はホームページ <http://www.kagawayoji.com>からどうぞ。
海外・国内行政視察等報告書などご覧いただけます。

平成19年度第4回定例会は9月6日から9月21日まで開催。鶴尾校区から提出されていた南消防署移転に関する陳情書が不採択となるなど、消防行政のあり方を再考しなければならない事態となった。

「高松市南消防署移転問題の陳情」不採択となる。



今回、鶴尾校区コミュニティー協議会は高松市南消防署の多肥地区移転に伴い、香

川県防災対策基本条例の「公助」の役割分担の責任回避。新南消防署建設予定地選定に問題。地元（鶴尾・太田・仏生山）に説明がない。

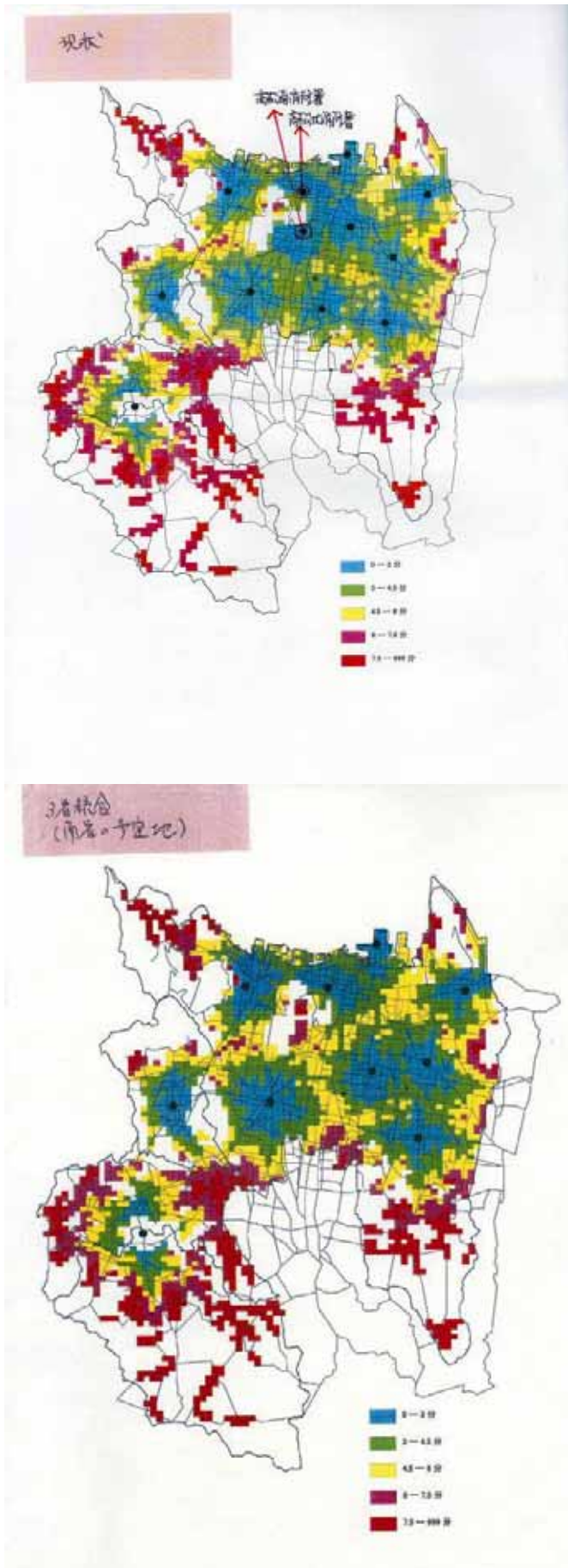
人口の集中する高松南部地域への行政サービスの低下を招く等の9項目を挙げ、移転再考の陳情書を大西市長及び鎌田議長に提出。陳情は総務消防常任委員会で審査したが、私は陳情採択賛成の立場から、**3点（次項目記述）**を問題点として陳述。しかし、13名委員中、同志会7名、公明党2名、市民フォーラム21、2名が不採決にまわり、私と共産党1

名が賛成。結果、委員会では不採決。本会議最終日、委員会報告を受け二川議員が賛成討論。香川・二川両無所属議員、共産党4名のみが陳情書採決賛成表明したが否決された。

資料・情報提出なく計画推進。疑問持たない善意(?)の議員！
前記の賛成意見の骨子は、移転計画が表面化した平成15年3月高松市消防局は（財）消防科学総合センターへ「高松市消防局における消防力適正配置調査報告書」を作成依頼。**報告書は一切議会へ提示なし。**報告書では南消防署の**適正配置を松縄町**とした。平成16年庁内政策会議で多肥町に移転決定。同地は福祉施設として公社が購入したが構想頓挫。消防用地に転用。**土地ありき、適正配置とは関係なく市幹部による暴挙。**当時消防局は**個別委員に説明**したと説明。これが**隠蔽密室行政**。

重要な移転後の緊急車両到着時間、基本構想の説明一切なし。シュミレーションは9月19日の総務消防常任委員会まで放置。今回の件に関し私も反省するが、幹部職員と一部議員に市政を牛耳られている現実が見える。そして**なめられている**。

鶴尾・栗林校区消防車到着メッシュ



掲載の左上下図は高松市内における消防車到着時間のメッシュ。この資料は、本年5月（財）消防科学総合センターで依頼し作成したもの。鶴尾校区など南部地区人口密集地は現在平穏な環境だが、2年後多肥移転後は仏生山、太田出張所を廃止予定のため、下図のように人口密集地域の不安定要素が発生する。（下図中央部右から2つ目黒点が予定地。また、図は現南消防署・仏生山・太田出張所廃止後を表す）救急車は出張所等に配置されていないが、南署移転後は鶴尾を中心とした地域一帯現在の3-4倍の時間を必要とする。

委員会では説明不足の陳謝だけ

消防局から移転により平準化されるという発言。現況が悪化する鶴尾地区、上之町地区など遅延が発生する地域も平準化と称するのか。また、仏生山地区では消防団で補完できるという暴論発言。今回の移転廃止問題は大西市長のマニフェスト「安心安全の町づくり」と程遠い。

情報開示と総合計画での見直し

平成15年の報告書では朝日町分署の移転等総合的に検討されている。近い将来おこりうるであろう東南海地震等の対応。少子高齢化に伴う安心安全の町づくりを構築するために、学校の統廃合のように審議会を早急に立ち上げ、官民一体での合議が必要。行財政改革における33名職員減についても再度検証が必要。目を覚ませ市職員と議員たち！

委員会報告はホームページから

<http://www.kagawayoji.com>